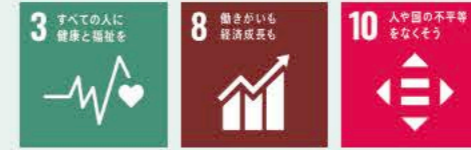


# トヨタ自動車の労働組合がめざすもの



生保労連は、11月25日の第1回単位組合委員長会議に、トヨタ自動車労働組合書記長の光田聡志氏をお招きし、「トヨタ自動車労働組合の『春の取り組み』について」と題するご講演をいただきました。

世間でも大きな注目を集めるトヨタ自動車労働組合の取り組みの一端を、組合員のみなさんにもご紹介したいと思います。

## 6万8千人の組合員の幸せと会社・産業の発展をめざす

世界最大の自動車メーカーであるトヨタ自動車本社では約7万名もの方々が働いており、そのうち約6万8千人がトヨタ自動車労働組合(以下、トヨタ労組)の組合員となります。

これだけ多くの組合員を集めるのは至難の業だと思いますが、光田氏によると「トヨタ労組は右図の通り5つの階層に分かれており、我々専従の執行委員を中心とした交渉はもちろんのこと、各工場単位など、層ごとでも現場の課題に関する意見集約や労使の話し合いが積極的に行われている」とのことです。



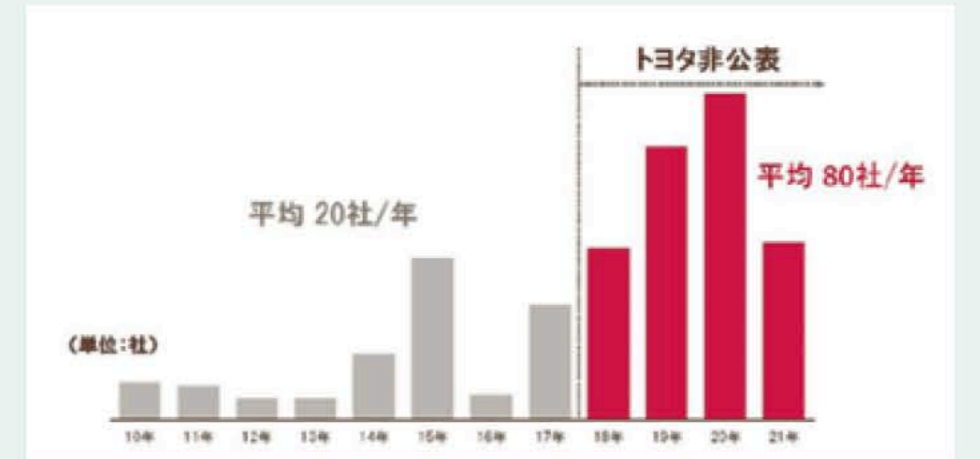
また、トヨタ労組では下図の通り「ミッション・ビジョン・バリュー」というものを掲げており、

光田氏は「長年掲げているミッションでは、組合員と家族の幸せだけでなく会社や産業の発展も目指しており、トヨタ労組の特色のひとつ」と言います。



## 格差是正のためにベースアップを非公開に

トヨタ労組では、春闘を「春の取り組み」と呼び、一年間の労使の話し合いの総決算の場と位置付け、組合員はもちろん、会社や産業、ひいては日本の未来につなげることをめざし、労働条件・処遇のみならず、広く経営課題も扱っています。



また、トヨタ労組と言えば近年、改善分(ベースアップ)を非公表とすることが話題となりましたが、これについて光田氏は「『上げ幅による賃上げけん引』が長く続いた結果、グループ各社の賃上げが『トヨタ $\alpha$ 』となる結果が定着し、トヨタ労組が賃上げをすればするほどグループ内格差が拡大することになってしまった」との反省から、「上げ幅(平均賃金)ではなく絶対額(個別賃金)を重視し、資格ごとの賃上げ額を要求するようにしたことで、結果的にグループ各社でトヨタ労組を上回る賃金改善が増加した」と言います。

生保労連では、組合員、会社、社会のそれぞれが良くなることをめざすトヨタ労組の取り組みも参考にしながら、今後の運動を進めていきたいと考えています。



トヨタ自動車のオウンドメディア「トヨタタイムズ」では、なんと労使交渉の様子も公開しています！

